

保護者意見（アイデア）から見える、これからの学校の姿

資料3

項目	意見（アイデア）
【知】 外国語教育 (英語)	①しゃべれるようになってほしい。(外国の人と話ができる)(現状はその実感がない) ②聞き取れることができるようになってほしい。(現状はその実感がない) ③R6年度まで実施していたTGGの研修や発音の練習の取り組みを再開して続けてほしい。 ④高校受験や大学に入るときに抵抗がないようにしてほしい。 ⑤幼児期に外国でも通用する英語発音の土台をつくりたい。 ⑥おだか認定こども園で実施している「えいご発音あそび」を家でも出来るようにやり方を親に共有してほしいし、そもそも「えいご発音あそび」を継続してほしい。 ⑦教師の異動もあるので、英語発音の学びを学校以外で継続できる仕組みづくりが必要。 ⑧⑦も含め、児童クラブなどを活用して、学校教育だけでなく、別な手法でも取り組む。 ⑨学校の取り組みだけでなく、地域を巻き込んで、例えば小高ストアの商品説明等を英語で表示するなどはどうか。(子どもと一緒に学べるといふ小高区の付加価値が小高ならではないか) ⑩学校で丁寧に教えてもらっていてありがたい。
【知】 探究・プログラミング教育	①故郷に誇りを持てる、地元で起業できるような人材育成をする取り組みが必要。(英語、キャリア教育などにICT教育を取り入れるなど) ②小高ならではの取り組み(特色)を行ってほしい。 ③プログラムを理解する必要は今後も続くので、苦手意識を持たないように、日常生活、身近なことを、プログラミングを活用して便利にする取り組みがあったらよい。 ④小高のコミュニティ(スーパー等)などを活用してプログラミングしてみる。 ⑤子どもたちの興味の選択肢を増やす取り組みがまずは必要だと思う。 ⑥⑤のためにも人や社会との接点を増やすことが大事である。
【体】 体を動かす機会の確保	①部活動を他の中学校と連携してほしい。(主に団体競技ができるように) ②集団登下校を地域の協力をもらいながら(見守り隊など)できないか。(1カ所に集めてそこから集団登校を行うなど)⇒異学年交流による心の成長も期待できる。 ③対人関係といった人間の基礎力を育てることが大事である。 ④自転車通学を復活してほしい。 ⑤郊外での体験学習を行うことにより体力をつけられるのではないか。 ⑥大人の見守りがある中での放課後の活動充実をしてほしい。(子供だけで遊ばせるのが怖い)
【その他】	①地域も含めて安心して子供たちが学べる環境づくりが必要である。 ②小学校・中学校の取り組みが分からないので教えてほしい。(議論の前提) ③議論の順番が逆ではないか。(まずは市の方針を示してほしい)(変更前プロセスの進め方) ④小学校・中学校の施設の現況を共有してもらってから学校のあり方を検討したい。 ⑤どちらの施設が新しいかとの視点だけで学校の位置を検討しないでほしい。小高中は小高区のシンボルである。 ⑥小学校までは児童クラブといった放課後の居場所があるが、中学校にはそれが無いので居場所づくりが必要である。 ⑦小高では幅広く学べることができた。(海外研修、プログラミング、相馬流れ山踊りなど)
【全体】	①各取り組み(例：外国語教育・探究・プログラミング教育等)を連携させることで、相乗効果が生まれるのではないか。

【意見の要点】

「使える(話せる・聞ける)スキル」と「受験対応」の両立、そしてそれを「幼少期から地域ぐるみで継続的に」実現してほしい。

「小高という地域」を学びのフィールドにし、「故郷への誇り」と「社会で役立つ力」を育ててほしい。

「学校内」に留まらず、「他校や地域との連携」によって活動の選択肢を増やしてほしい。

「安心できる環境」と「中学生の居場所」を作ってほしい。

各取り組みが連携し、相乗効果を生み出す教育全体への期待

【共通の願い】

② ①
 しそを学
 ての育校
 ほ実んの
 し現で中
 いのほだ
 。たしけ
 めいで完
 結しな
 い、実
 社会や
 将来に
 直結す
 る『生
 きる力』
 を最大
 限に活
 用

【学校像】

学
 び地
 を域
 を通社
 し会
 てと
 、深
 広く
 連続
 も携
 たし
 ち、
 各教
 育活
 動が
 有機
 的に
 結び
 つい
 た実
 践的
 な